

策定部会 会議概要報告書

1. 策定部会名 産業振興部会
2. 会議開催日時 令和2年11月27日（金）午後1時30分～午後3時15分
3. 会議開催場所 秋田県平鹿地域振興局 3階 会議室

4. 出席者の所属・氏名

市民委員	J A 秋田ふるさと	営農経済部次長	内藤 浩美
	秋田県信用保証協会	横手湯沢支所長	齊藤 健
	秋田ふるさと村	事業部長	佐藤 丈浩
策定部会	リーダー	農業振興課	菅原 正美
	サブリーダー	観光おもてなし課	吉方 貞美
	同	商工労働課	石川 知博

5. 案 件

産業振興部会で作成した政策4の素案について
(施策4-1～施策4-5)

6. 主な意見(要点)

(1) 施策4-1 (内藤委員より)

横手市の農業については、農業者の高齢化が進んでおり担い手の確保、育成が一番重要であるとJAでも感じている。

素案をJA営農経済部内で回覧したが、現状と課題を的確に捉えており今後期待されるスマート農業の取り組みについても記載されており、素案については、この内容でいいと思うが、1つだけ検討していただきたい文言がある。

JAでは、会合の度に「全国に誇れる複合産地」を掲げ、農家との合言葉にしている。横手市もJAとの連携協定のもと複合産地を推進しており後期計画に素案に加えていただきたい。(※要検討)

(2) 施策4-2 (佐藤委員、齊藤委員)

- ・ 施策の展開に事業承継の取り組みが記載されていないがよいのか。
- ・ 従来の個店は、大型店と比べて新規客が入りにくいと思う。ネット上にバーチャル商店街があれば、新規客が気軽に訪れることができるのではないか。
- ・ 各地地域のストーリーを活かした商品開発に力を入れるべきではないか？
- ・ 起業というハードルを低くするためにも、いい意味での事業撤退の仕方を起業セミナーで教えるべきではないか。撤退は失敗ではなく、そこらから再ス

タートが始まると思う。

- ・ネットショッピングへの取り組みにも支援があってもよいのではないか。

(3) 施策4-3 (佐藤委員)

工業見学は、企業の魅力紹介だけでなく観光にも繋がると思う。「大人の工場見学」ができるレベルの企業があればよいと思う。

(4) 施策4-4 (佐藤委員)

- ・秋田ふるさと村での GoTo キャンペーンによるお土産の売上は 1,300 万円を超えており、大変な効果があるものと認識している。
- ・修学旅行によりふるさと村を訪れる生徒さん達が増加しているが、当施設や増田だけではなく、別の面でクリーンプラザよこてにも寄っていただき環境対策等を学んでほしい。
- ・コロナの影響により、バーチャル観光が進んでいる。参加者に魅力をきちんと伝えるためガイドの育成は急務である。今後は情報発信が更に重要となる。
- ・通過型の観光ではなく横手に宿泊していただくためには、宿泊施設の魅力をもっとアップさせなければならない。施設の周辺で出来る体験をセットにするべき。グリーンツーリズムも強化しなければならない。
- ・横手市には、もっと台湾営業を行ってもらいたい。秋田内陸縦貫鉄道には年間3万人の台湾人が訪れるとのこと。1両編成の電車が珍しいようだ。台湾もどんどん発展しているため、ローカル見たさに秋田県を訪れる観光客も多いと聞く。

(5) 施策4-5 (齊藤委員)

施策の展開に、「研究機関等の立地を目指す」とあるが、現在のところ見込みはあるのか。

7. その他
意見なし

以上のとおり会議概要を報告します。

令和2年12月7日

〈報告者〉 所属部局課等 農業振興課 氏名 菅原 正美